

## 前立腺肥大症に対する新しい、身体に優しい手術方法が導入されました

### ～ホルミウム・ヤグレーザーによる前立腺核出術 (HoLEP) ～

ホルミウム・ヤグレーザーによる前立腺核出術 (HoLEP) は、レーザー光を使用して、前立腺の肥大した組織を内視鏡下に摘出する治療法です。当院では、平成 25 年 3 月からこの手術を導入しましたのでご紹介します。

#### Q1：どんな手術ですか？

**A1：**この手術は、まず内視鏡を尿道から挿入し、ホルミウム・ヤグレーザーという種類のレーザー光を、前立腺の内腺（前立腺肥大組織）と前立腺外腺（外科的被膜）の間に照射してその境界をはがしていきます。ちょうど、みかんの皮をむくような操作です。はがれた前立腺肥大組織は、やがて外腺からはずれます。このことを「核出」といいます。きれいに核出された組織は、「モーセレーター」という装置を用いて、細かく裁断して吸引除去します。

The diagram is divided into three horizontal panels illustrating the HoLEP procedure:

- Panel 1:** Shows a cross-section of the prostate gland. The inner gland (inner prostate) is enlarged and highlighted in pink. The outer gland (outer prostate) is the surrounding capsule. A blue laser beam (labeled 'ホルミウム・ヤグレーザー') is shown being applied to the junction between the inner and outer glands. The urethra (尿道) is on the left, and the bladder (膀胱) is on the right. A label '肥大した前立腺組織 (内腺)' points to the enlarged inner gland, and '外腺' points to the outer gland.
- Panel 2:** Shows the inner gland (now consisting of two lobes, '右葉' and '左葉') moved into the bladder. The outer gland remains in its original position.
- Panel 3:** Shows the inner gland in the bladder being cut into small pieces by a 'モーセレーター' (morsellator) device. The device is shown as a horizontal bar with arrows indicating the cutting motion. The urethra (尿道) is visible below. The middle lobe is labeled '中葉'.

① 肥大した前立腺の内腺と外腺の境目にホルミウム・ヤグレーザーを照射し、内腺のみをくりぬくように核出します。

② 核出した内腺を、膀胱内に移動させます。

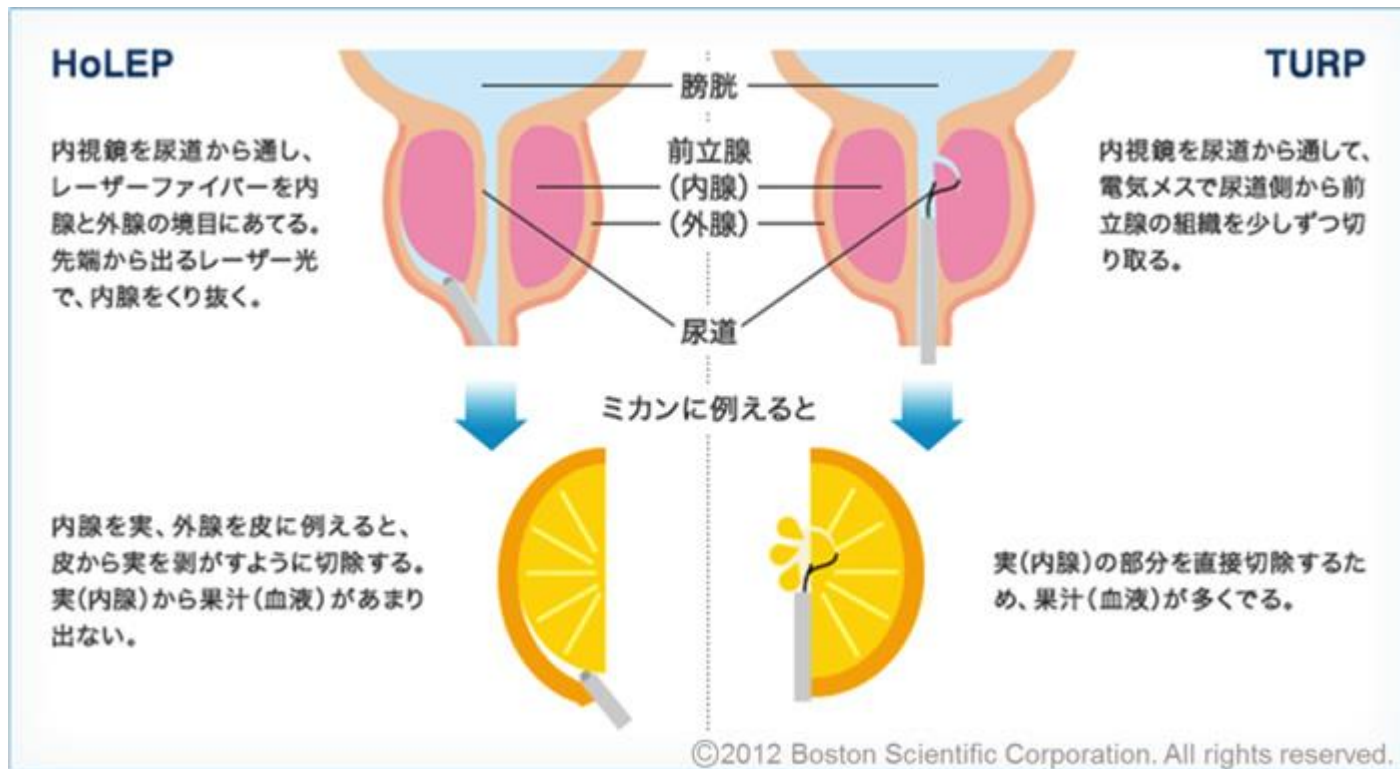
③ 前立腺組織をすべて膀胱内に移動させた後、モーセレーターという機器を用いて、前立腺組織を細かく切断しながら、吸引し、体外に排出します。

©2012 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

#### Q2：これまでの手術と比べてどのような点が優れているのですか？

**A2：**従来は、「経尿道的前立腺切除術 (TURP)」という手術が標準手術でした。これは、内視鏡下に前立腺肥大組織を電気メスで少しずつ削りとり、その切片を洗い出す手術です。この方法では、大きな前立腺肥大症では出血が多くなり、また、術中に使う灌流液が体内に吸収され、低ナトリウム血症（軽症では

嘔気や頭痛、重症では意識障害、呼吸不全) を来すなどの副作用がありました。前立腺の大きさが大きいとその副作用の危険性が高まるため、大きな前立腺肥大症では施行しにくいという問題がありました。HoLEP では、これらの危険性が大幅に減少し、前立腺肥大が大きいために開腹が必要であったケースでも、この手術で出来るようになります。また、切除面が無理なくはがれる面であることから、術後の疼痛やカテーテル留置期間が短くてすむといわれています。



### Q3：注意点は？

**A3：**手術時間がやや長くなるため、全身麻酔が必要になる場合があります。手術後に尿道カテーテルを抜去した後の一時的な尿もれや、また非常に稀ですが、組織を裁断吸引する装置（モルセレーター）による特殊な合併症として、膀胱損傷などもあります。詳しくは、泌尿器科外来でご相談ください。